

○ 本校の概要

本年度は、各学年4学級計12学級の生徒数467名(4月現在)、相談学級2学級の規模である。教職員は54名(教員27名、事務・栄養士・用務6名、講師8名、スクールカウンセラー3名、学校管理4名、支援員6名)で構成している。
平成16・17年度は、教育課程推進校として、小・中連携教育をテーマに小・中のスムーズな接続の研究実践を行った。その伝統を受け継ぎ、今年度も小学校3校との学校間交流を一層強力に進め、授業研究・わくわく体験・ボランティア活動等の行事に取り組み、生徒一人一人の個性と適性を把握し、伸張を図っている。
また、学校支援地域本部により二中応援団としてさらに活動を広げている。部活動を始めとし、生徒の様々な活動の場で保護者と地域が連携し応援している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学が意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4	生徒の回答は87%であった。昨年度と同じであった。ICT機器が充実したこと、より多くの教員が使うようになり、生徒の興味・関心につながると考えられる。また、土曜補習教室も年6回以上行い、時間も質問コーナーとして1時間多く設定した。平日の補習教室も回数を増やした。今後も分かりやすい授業を目指し、生徒の学習意欲につなげたい。	○生徒の理解度が一番かと思えます。これからも学力アップで頑張って欲しいと思います。 ○補習教室の時間、回数共に増やしていただいたこと、大変良いことだと思います。生徒・保護者に代わってお礼申し上げます。 ○授業内容がわからない人達に対する細かい配慮をしている。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2		
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
		授業において、発表・発言の機会を設ける。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4	生徒の回答は94%であった。生徒会担当のボランティア清掃を通してボランティア精神を育んだ。参加率は昨年度より9%上がり27%になった。1学年の参加が多かったが、だんだん寒くなるにつれて参加率は下がっているのが現状である。1学年の小中学校との合同清掃や小中読み聞かせなどの行事を通して、ボランティアの機会を増やし、意識向上を目指す。学校生活調査やいじめ調査の結果を受け、生徒が安心・安全に学校生活を送れるように早期に対応する。	○真のボランティアは本当に難しいものです。若いうち(中学生)からボランティアの機会を与えられる必要性を感じています。 ○ボランティア清掃ということで、強制でないことが大事だと思いますが、27%とはなかなか立派な参加率ではないでしょうか。年に1回でも、1人でも多くの生徒が体験できるといいますね。小中読み聞かせも小中学生双方にとって良い取り組みだと感じます。 ○細かいところはわからないが職場体験などを通して、言葉づかいがとてつもないでいい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
		笑顔であいさつを交わす取り組みを行う。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4	遅刻0の生徒は昨年度より3%上がり70%であった。生徒と教員の挨拶運動を通して、毎日同じリズムで登校できるように声をかけ徹底していく。ざりざり登校はほとんどないの、生徒の意識が改善されている。生徒のアンケート結果にあるように食生活の重要性は理解しているが朝食摂取率は低い。運動会や運動部の活動が盛んであるため、食育教育を推進し、規則正しい生活習慣の重要性を伝えていく。	○挨拶も体力向上も部活も全て相乗効果でまわっている気がします。期待します。 ○校庭が長い期間使用できず、成長期の子供達にとっては力もあましている感があった。 ○朝食摂取率が高いのは喜ばしいことですが、朝食の内容についても調べてみてはいかがでしょうか。 ○遅刻する人もできていないに注意した、全体力をあげることが必要。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
		規則正しい生活を目指して、遅刻ゼロを推進する。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
			「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1		
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4	保護者の回答は昨年度より2%上がり、89%であった。毎月、校内美化のために美化ウィークを設定し、気持ちよく過ごせるように環境作りを行った。各クラスが表彰されることを目標として、すべてのクラスが関わって教室をきれいにしている。ICT機器が整備されたことで今まで利用していなかった教員が積極的に利用するようになった。それに伴い、生徒の意欲・関心が高まり、学習環境が功を奏している。毎学期の授業参観を実施することで、教員が授業評価を参考に授業力向上に努めた。	○気持ちの良い学校の環境作りで学力もUPすると思われま。続けて行って欲しいです。 ○きれいな校舎で気持ち良い学校生活送っている様子は校内を歩けばよくわかります。先生方が授業をより良いものにしていくことこそ、生徒達の学力向上に大きく貢献するのだと思います。そのために十分な時間を確保していただきたいです。 ○廊下や教室内でもきれいにしている。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。	3		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。	2		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1		
		運動会・合唱コンクールは、教育活動の良い発表の場となっている。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1		
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4	学校緊急連絡システムの加入率は82.8%と昨年度より微増ではあるが増えた。保護者が情報提供に満足していると回答した人が90%と高いので、学校行事の配信等でも多くの保護者が教育活動を参照できるように今後の公立学校共通のものになり、月に1回以上は更新し、本校の良さを伝えていく。学校支援地域本部と連携し、教育環境の充実を図り、地域とともに生徒を育てていく。	○地域とともに育てる。微力ながら、地域皆で考えなければいけないことだと思います。 ○ホームページが見やすくなりました。部活動の内容などの情報もあり、学校の様子が良くわかるようになりました。このままでも終わらず、定期的に更新を続けて欲しいです。 ○自分の学校に誇りをもって。父兄も先生も力強く発言しているのが何よりの力である。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。	3		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。	2		
		学校緊急連絡システムを適宜活用して、保護者に情報を提供している。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能で